



苦小牧工高  
関東六華会

# 会報

## 第2号

発行責任者 毅 集 弘嘉夫 時次  
川上 編 斎藤 木谷 藤田

### 関東六華会の皆様へ



同窓会本部会長

岩本 靖雄(土木三四四年)

西暦二〇〇五年、同窓生の皆様方は又あらたな清々しい年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

日頃から同窓会本部運営には力強い」支援と、「協力を頂いております事に、この紙面をお借りして厚くお礼を申し上げます。

私も会長を仰せつかつて5年目を迎えることになりますが、偉大な西浦前会長

(故人)から引き継いで、母校創立80周年記念事業を無事終えることが出来たとはいえ、何か月日の経つのが早く、自分自身の役目を果たしているのかなと、反省をしているのが偽らざる気持ちであります。

こうした中で、各地の支部行事に出席をさせて頂いておりますが、どこの支部においても大変な歓迎を受け恐縮しております。ことに、故郷から遠く離れている支部は、

母校の様子、恩師の消息はもとより、「街」の状況、そして何よりも「野球部」の甲子園出場はどうなのがというように、地元への熱い思い入れを肌で感じております。「ことに母校のライバルである「駒大苦小牧高校」の全国優勝は部員にとって大きな刺激になったと思います。

やれば出来るんだという、思いを強くしたのではないでしょか、今年に期待をしたいものです。

さて、学校が今年から少し様変わりします、これまでの7学級が1学期削減されて6学科になります。従来の設備工業科と工業化学科がなくなり、新たに環境化学会が新設されることが決定されております削減の大きな理由は、中学卒業生の減少、自分の育った学科が無くなることは非常に寂しいのですが、これも現在の社会状況からして致し方ないかも知れません。昨年は、台風、猛暑、そして地震と日本列島は自然の猛威にさらされました、これも地球の温暖化が大きな要因になつていると説く学者の方がいるようです。そうなると今年もなのが心配になります、そうならないことを

願うのみですが、我々苦工生には母校で育んだ「質実剛健」の精神が生きていると思います。現在のこの厳しい社会状況にも堂々と立ち向つて欲しいものです。最後に同窓生皆様方の「健康とさらなる」躍進を期待して結びとさせていただきます。

### 千葉支部の運営変更について

関東六華会・副会長

山本 仍典(電気二一年)

昨年九月に千葉支部を発展的解消をして、関東六華会へ一本化して質の高い同窓会を目指していくことになりました。この経緯については千葉支部の会員にはご報告しましたが、関東六華会の「同窓会の方々にはこの会報をもつて「報告とさせたいだきます。

### 千葉支部解消に際して支部の生い立ちを記す

昭和六二年の統一地方選に、電気三七年卒の加賀谷氏が県議に立候補することになつたが北海道出身で地盤もない新人がなつたことには大変難しいことでした。が苦工健児の意地を見せる為にも是非当選をと、大勢の同窓生有志が応援にきて頂いた。その結果、見事にトップ当選することができました。

当時の東京支部長近江さん等の方々にも賛同をいただいて、加賀谷氏の選舉事務所に同窓会専用の部屋を設け期間中は同窓生の皆さんが出入り、熱氣のある応援体制を整え運動を開いたその後、折角千葉支部の同窓生がこの期に「これだけ多くの人が盛り上がりがつ気持ちをこのまま終わらせるのは寂しいのではないか」という声が大きくなり、當時、千葉県内には四〇名程の同窓生がいることで東京支部の了解を得て、昭和六三年に四〇名が集まり、千葉支部を発足させました。初代支部長には人望の厚かった加藤氏(電気二〇年卒)、幹事長に大泉氏(土木四四年卒)でスタートした。その後、加藤支部長が他界される前にその次の支部長には山本君頼むよといわれ、幹事長を石堂氏(土木三九年卒)のコンビで最近迄続いた。千葉支部が十八年間にわたり、大勢の方々の「支援と」「協力を得て色々な行事を盛会にしてこれまでしたことに対して深く感謝致しております。加賀谷県議は六期目に入り今や県議の重鎮で「活躍中でその間、同窓生諸氏の熱き応援に厚くお礼申し上げます。千葉支部の方々には長い間の「厚情をいただき重ねてお礼を申し上げると共に皆様の「健勝をお祈りし今後「関東六華会」への積極的に参加されてその席での元気な姿で再会を楽しみにしております。

関東六華会副会長

木谷 駿夫（電気科三十五年卒）

関東六華会が発足後に不肖当方が川上会長の陣頭指揮の元、副会長の大役を任命され、少しでも母校や関東地区の皆さんにお役に立つ様に努力しておりますがかたぐるしい内容よりもすこし過去の思い出だしてみたいと思います。

あるので大阪ではどこにもおろされず  
しかも見学もできずに、大阪城で記念

四〇〇四年度の

総会が開催されました。

詳細は別紙「」参照下さい。

会員情報たより

同窓会の「案内」で各位から頂いた  
情報をお知らせするコーナーですが  
別紙記載致しましたので、「覧下さい」。

編集後記

二〇〇四年度は国内外で災いの年でした。が被災地の復興は厳しい冬季の厳しさに被災見舞金を送付した。

又假金利に転がりて 捕獲め言葉  
が多発化。災害は忘れた頃に・・の  
諺を肝に銘じて備えをしつかりする

校生と大阪駅ホームで喧嘩をし、売店で万引きをした事である。その内容が関西地区の新聞に掲載、「苦工生は大阪に来るな」というような非難轟々の投書が相当数、校長宛に来た。当時の一柳校長が涙ながらに、「この投書を読まれた事が今も鮮明に記憶している。小生達もこの年の秋（二年生）は関西方に修学旅行に行つたが先例が

守谷氏が特許弁理士活動で長年の貢献に  
対して表彰された。

守谷一雄氏(電通三十六年卒)

よい闇せまる新宿ネオン街に足を運んだ  
様でした。

参加を期待致します。

健康が第一番で心暖かな社会に希望をもちなら、関東六華会の総会での

守谷渡部内外特許事務所

三三二一七八

「注意」と「案内」